

水産海洋研究，県単独事業 (2016年度の魚介藻類の傷病予防対策)

中田祐二*

県内のクルマエビ養殖業では 1998 年度に発生したクルマエビの急性ウイルス血症（*Penaeid acute viremia*：以下 PAV）は，県内のクルマエビ養殖業に大きな被害を発生させたが，海洋深層水を利用したウイルスフリー種苗供給体制の確立や検査態勢の充実により，近年は被害が生じていなかった．しかし 2013 年以降，県内各地で PAV の発生が確認されており，2016 年度は，沖縄本島及び宮古島で発生が確認された．発生した養殖場に隣接する海域には，PAV に感受性のある甲殻類が生息しているため，それら甲殻類に対し PAV の原因ウイルスである PRDV 保有状況について調査を実施した．

フトミゾエビの PRDV 保有状況調査

採捕場所は，PAV の発生したクルマエビ養殖業者に

聞き取りをし，養殖場周辺でクルマエビの近縁種であるフトミゾエビが多く生息している浜を対象とした．検査用のサンプルは，大潮の夜間干潮時に，対象海域の浅瀬でフトミゾエビを含む甲殻類を採捕し，凍結保存した．

ウイルスの保有検査は，現場から採捕したサンプルから DNA を抽出し，Nested PCR 法により行った．その結果は表 1 の示すとおりとなり，採取したサンプルから PAV の原因ウイルスである PRDV は検出されなかった．そのため海域への PAV の拡散は検出限界以下，若しくは無いものと考えられた．疾病発生時期の関係上，調査は年度内に 2 回（st.1, st.2 では 1 回）に留まったため，次年度以降も継続的に調査を実施するとともに，調査結果を速やかに関係者に提供していくことが安定生産に必要と考える．

表 1 甲殻類の PRDV 保有状況調査結果

採捕場所	採捕年月日	種類	個体数	陽性数
A市	2017年1月11日	フトミゾエビ	8	0
		甲殻類	1	0
	2017年4月26日*	フトミゾエビ	9	0
		甲殻類	3	0
	2017年1月12日	フトミゾエビ	10	0
		甲殻類	2	0
	2017年4月27日*	フトミゾエビ	72	0
		甲殻類	2	0
B市	2017年1月27日	フトミゾエビ	2	0
		甲殻類	13	0
	2017年1月28日	フトミゾエビ	8	0
		甲殻類	4	0
	2017年3月28日	フトミゾエビ	18	0
		甲殻類	19	0
	2017年3月29日	フトミゾエビ	11	0
		甲殻類	10	0

*2018年度実施分

*E-mail : nakatayj@pref.okinawa.lg.jp, 本所